

全体総括

○計画期間：平成26年11月～令和2年3月（5年5ヶ月）

1. 計画期間満了後の中心市街地の概況

中心市街地活性化基本計画に基づき、国の社会資本整備総合交付金等を活用する中で、甲府駅南口周辺及び平和通りの景観形成等によるまちなかの賑わいに向けた環境整備などに取り組んできた。

甲府駅南口周辺地域再整備事業（甲府駅南口駅前広場）において、ターミナルの機能強化や、交流空間としての高質化により、甲府駅南口の良好な景観整備と利便性の向上が図られ、県都の玄関口にふさわしい整備が進められるとともに、甲府駅南口周辺地域再整備事業（平和通り）においても、歩行者や自転車、公共交通機関の安全性・快適性が高められた。

甲府城南側エリアの整備については、甲府城周辺活性化基本計画及び甲府城周辺地域活性化実施計画が策定されるとともに、まちなか回遊道路整備事業が完了したことにより周辺の回遊環境が向上した。

甲府銀座ビルの再整備については、平成30年2月に、124戸の分譲マンションとなる「デュオヒルズ甲府」が完成し、居住人口の増加に寄与するとともに、1階商業床4区画全てがオープンし、周辺道路エリアのグレードアップを図る「都市空間道路整備事業」により、回遊性の向上や周辺の空間形成が図られ、公共空間を活用したイベントの開催とあいまって、中心商店街における新たな魅力とにぎわい、そして、交流の拠点が形成された。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度4月1日）

（中心市街地 区域）	平成26年度 （計画前年度）	平成27年度 （1年目）	平成28年度 （2年目）	平成29年度 （3年目）	平成30年度 （4年目）	令和元年度 （5年目）	令和2年度
人口	5,527	5,462	5,375	5,269	5,275	5,303	5,471
人口増減数	△84	△65	△87	△106	6	28	168
自然増減数	△52	△42	△53	△60	△66	△46	△76
社会増減数	△2	△8	△23	△23	36	24	42
転入者数	291	300	300	265	312	306	369

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

① 概ね順調に進捗・完了した ② 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

① かなり活性化が図られた

② 若干の活性化が図られた

③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由

計画していた事業は主要事業を中心に概ね実施できたため、概ね順調に進捗・完了したといえる。

中心市街地活性化基本計画に記載した各種事業の進捗により、交流人口の増加をはじめとする賑わいが創出されるとともに、計画期間中は、行政、各種商業団体、まちづくり会社、商店主が本市の中心市街地のあり方について協議、検討したことで、方向性の共有や各主体が取り組むべき事項の意義づけが図られた。

旧甲府銀座ビルが、新たな定住と交流拠点として、124戸の分譲マンションと1階商業床を擁する複合ビル「デュオヒルズ甲府」へと生まれ変わるとともに、これと相俟って、都市空間整備事業、まちなか回遊道路整備事業等を中心とした快適な歩行空間を整備する中で、新たな人の流れが生まれつつあり、また、こうしたハード整備のほか、空き店舗活用事業によるジュエリーをはじめとする魅力的な店舗の出店やイベントの開催などに加え、リノベーションまちづくり構想による遊休不動産の活用を通して、若者や民間主体による意欲的な活動が各所で発現された。

その効果は、成果指標にも現われてきており、その内の一つである空き店舗数が、平成28年度の段階から目標達成したことをはじめ、その他の指標である歩行者通行量や居住人口についても、計画期間後期においては、改善が見られた。

こうしたことを考慮し、若干の活性化が図られたと考える。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

① かなり活性化が図られた

② 若干の活性化が図られた

③ 活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

④ 活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

甲府市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議・調整しながら中心市街地活性化を推進した結果、計画に位置付けた事業等は概ね順調に実施されたと考える。大きな活性化には至らなかったとはいえ、市民の中心市街地への意識は高まってきており、空き店舗数の減少や居住人口の増加など、良い方向で動き出している傾向がある。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

甲府市市民実感度調査

調査地域：甲府市全域

調査対象：甲府市在住の18歳以上の男女

調査対象者数：2,000人

調査期間：令和元年5月24日～6月21日

調査方法：郵送配付・郵送回収法（無記名）

回答数：826人

平成28年度から開始した市民実感度調査における「中心市街地に賑わいが創出されている」という市民意識について、平成28年度は1.70ポイントであったが、令和元年の調査では1.77ポイントとなり若干改善した。また、意見の中には、魅力のある店の誘致や全ての年代の人が車を使わずに交流・協力して生活できるコンパクトな中心街にして欲しいなどがあった。

6. 今後の取組

中心市街地の賑わいの創出に向け、商店街、関係団体、事業者などの民間主体の活動を支援するとともに、歴史、文化、芸術などを活かした回遊を楽しむことのできる中心市街地を目指す。

また、人口減少・少子高齢社会に対応したコンパクトなまちづくりに向けては、居住や商業をはじめとする都市機能を市民の拠点となるべき地域に集約していく必要があり、その中で、都市の核である中心市街地における賑わいの創出等を通じて、エリア価値の向上に取り組んでいく。

商業の活性化に向けては、商店街の魅力向上に努めるとともに、多様な主体のまちづくり活動の参画を促す民間主体と行政が協力した取組を継続的に実施していく。

加えて、立地適正化計画及びそれに基づく社会資本整備総合交付金等を活用し、中心市街地活性化区域が包含された甲府駅周辺の重点都市機能誘導区域内において、甲府城周辺地域活性化実施計画に基づく整備等により賑わいの創出を図るとともに、魅力あるまちを目指すことにより、定住人口の増加に繋げていく。

これまでの計画に位置付けられていた事業については、今後も事業の継続を行うとともに、「第六次甲府市総合計画」における、施策ごとの事務事業評価の中で適正に評価し、改善しながら推進していく。

(参考)

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	(参考) 目標値の 80%	最新値		達成状況
					数値	年月	
快適な歩行空間と人が集う魅力的な商店街の整備によるまちの活力の発揮	空き店舗数	231 店舗 (H25 年度)	173 店舗 (R1 年度)	185 店舗 (R1 年度)	150 店舗 (R1 年度)	R1.9	A
にぎわいの場を結ぶルートの整備とまちの魅力の創出	歩行者通行量	151,626 人 (H25 年度)	186,564 人 (R1 年度)	179,576 人 (R1 年度)	138,741 人	R1.12	C
アクセスしやすく、多世代が安心して暮らせる都市・生活基盤の創造	居住人口	5,527 人 (H26.4.1)	5,817 人 (R2.4.1)	5,759 人 (R2.4.1)	5,471 人	R2.4	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b1、b2、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B1 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。また、最新の実績では目標値の 80% を達成。)

B2 (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値の 80% には及ばず。)

b1 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値の 80% を達成。)

b2 (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値の 80% には及ばず。)

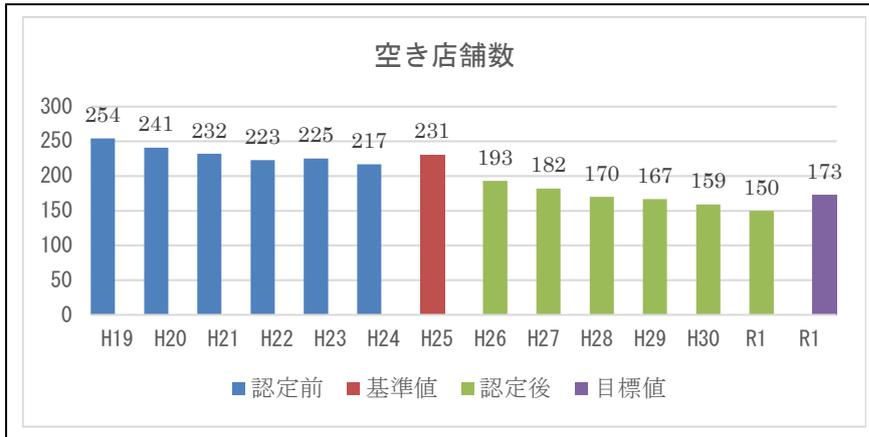
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P74～P77 参照

1. 調査結果の推移



年	(店舗)
H25	231 (基準年値)
H26	193
H27	182
H28	170
H29	167
H30	159
R1	150
R1	173 (目標値)

※調査方法：担当課職員による目視及び聞き取り等による現地調査

※調査月：6月～9月

※調査主体：甲府市

※調査対象：商店街の道路等に面した1階部分の店舗

2. 目標の達成状況【A】

「空き店舗数」については、平成25年度より空き店舗活用事業の制度を拡充し、小グループ自主的取組支援事業とともに、制度が認知されてきたことから見込み以上に進捗しており、既に平成28年度に目標値をクリアし、最終年度においても目標を達成したためAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 空き店舗活用事業（甲府市）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	支援対象となる空き店舗（道路に面した1階部分等の店舗）への出店の際の家賃（12ヶ月間）及び改修費用の支援
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成26年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：10店舗 最新値：63店舗 目標達成
達成した（出来なかった）理由	平成25年度より制度を拡充し、令和元年度には新規で7件が活用され、空き店舗の減少に寄与した。
計画終了後の状況（事業効果）	空き店舗の減少により賑わいの向上につながった。
事業の今後について	空き店舗の解消に向け、引き続き事業の推進を図る

②. 小グループ自主的取組支援事業（甲府市）

事業実施期間	平成 25 年度～令和元年度【済】
事業概要	小グループが行うファサード整備など、中心市街地の活性化に寄与する自主的取組を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 26 年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：5 店舗 最新値：0 店舗 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	直接的に空き店舗を解消する取組は少なかったものの、これまでの取組みは、中心商店街の魅力をPRすることにつながることから、間接的に空き店舗の解消に寄与したものと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	民間によるまちづくり活動を支援してきたことにより、商店街の魅力向上や民間主体によるまちづくり活動の誘発剤になっている。
事業の今後について	他の事業と統合する

③. まちなか不動産バンク事業（甲府市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	遊休不動産の有効活用を図るため、所有者等に対するバンク登録への呼びかけを行い、登録物件情報を積極的に情報発信するとともに、利用希望者との最適なマッチングを行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 26 年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：19 店舗 最新値：3 店舗 目標未達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地の不動産の所有者や使用者の相談に応じる中、不動産の有効活用を図るとともに、積極的な情報発信を行ったが、登録件数の伸び悩みもあり、達成しなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	事業用物件については、本市のまちなか不動産バンク事業と連携して実施している合同会社まちづくり甲府の「まちなか不動産バンクサポートセンター（サイト）」に（おいては、これまでの登録物件 89 件（R1 実績：3 件）に対して 56 件（R1 実績：5 件）の成約実績があり、空き店舗の減少について、事業効果が現れてきていると考えられる。
事業の今後について	空き店舗の解消に向け、引き続き事業の推進を図る

4. 今後の対策

空き店舗活用事業は、平成25年度より、家賃だけでなく改修費用の支援など、制度を拡充する中で、これまで63件が活用されており、空き店舗の解消に大きく寄与した。

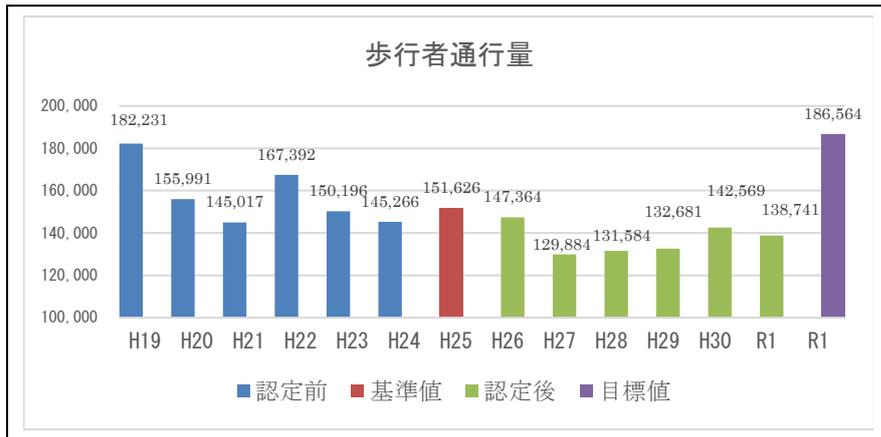
また、小グループ自主的取組支援事業は、直接的に空き店舗を解消する取組は少なかったものの、中心商店街の魅力をPRすることにつながることから、間接的に空き店舗の解消に寄与したものと考えられる。

まちなか不動産バンクについては、平成26年10月に事業を開始し、事業用物件10件の登録に対し、3件の成約実績となっているが、合同会社まちづくり甲府と連携した取組として、まちなか不動産バンクサポートセンター(サイト)において、空き物件の紹介を行うとともに、空き物件見学会により、所有者と使用希望者のマッチングを行う事業を推進しており、登録件数89件、その内成約は56件となった。

今後も空き物件が増加しないよう引き続き事業を推進していく。

「歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P78～P85 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/3日)
H25	151,626 (基準年値)
H26	147,364
H27	129,884
H28	131,584
H29	132,681
H30	142,569
R1	138,741
R1	186,564 (目標値)

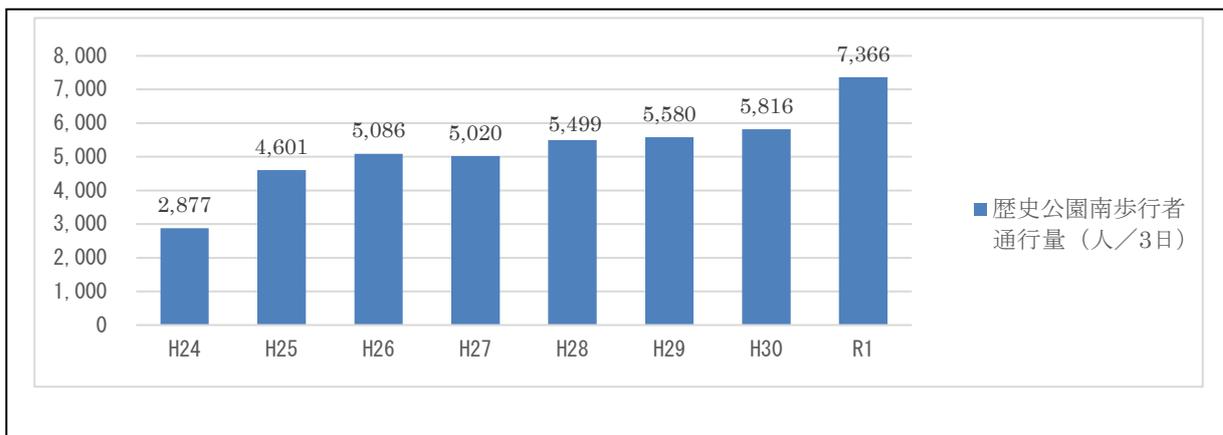
※調査方法：20調査地点で、10時～20時の間、調査員により集計

※調査月：11月末を中心とした金、土、日の3日間

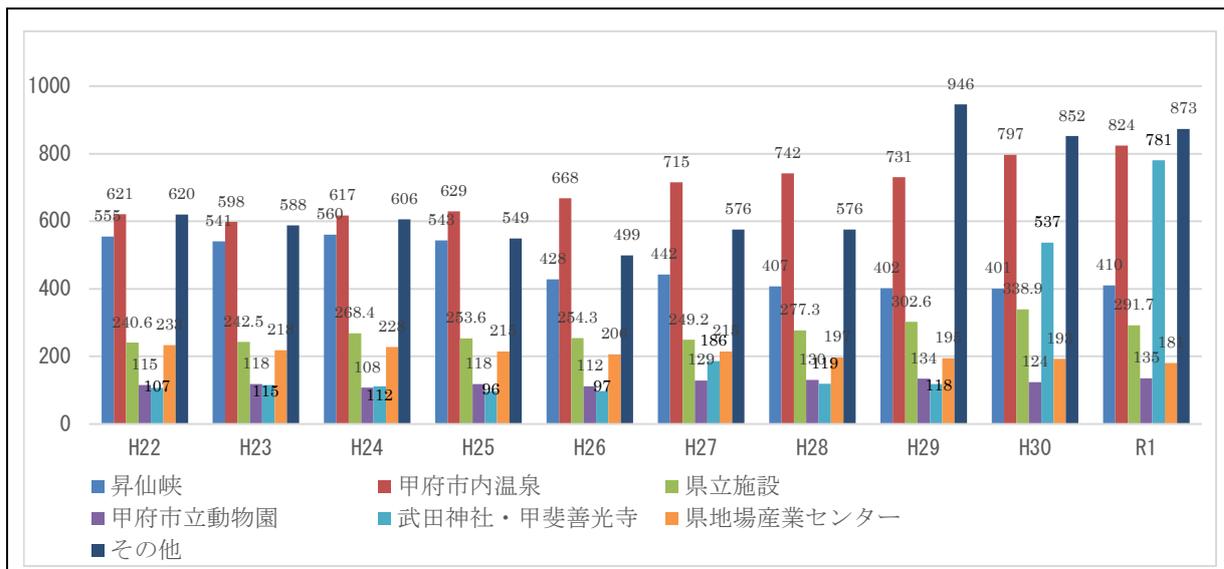
※調査主体：甲府市

※調査対象：歩行者、自転車利用者、原動機付自転車利用者（調査地点20箇所）

・参考指標1：歴史公園南歩行者通行量



・参考指標 2：年間観光客入込状況（単位：千人※県立施設のみ：万人）



2. 目標の達成状況【C】

各事業は見込みどおり進捗し、甲府駅周辺においては、南口周辺地域修景計画に基づく甲府駅南口駅前広場や平和通りの整備により、県都の玄関口に相応しい多くの人々が行き交い、集う、魅力的で賑わいのある空間が形成されたが、山交百貨店の閉店や甲州夢小路への新規店舗オープン等、歩行者や導線が変化したことなどの要因により、目標を達成しなかったことからCとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. まちなか回遊道路整備事業（甲府市）

事業実施期間	平成 27 年度～令和元年度【済】
事業概要	歩行者の回遊環境を向上するため、歩行空間の改良等の市道整備、桜町道踏切の拡幅等、前計画で賑わい創出の効果があった甲府駅北口周辺エリアと成果がみられなかった区域である南エリアを結ぶ歩行空間の整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画（甲府市中心市街地地区（第 2 期）） 平成 27 年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	社会資本整備総合交付金を活用する中で、桜町道踏切の拡幅や甲府城跡東歩行者スペース整備等を実施し、令和元年度に完了した。
達成した（出来なかった）理由	計画通り事業が完了し、回遊性が向上した。
計画終了後の状況（事業効果）	駅北口と中央商店街が線で結ばれたことにより、中心市街地の回遊性の向上が図られた。
事業の今後について	計画通り事業が完了した。

②. 県庁舎耐震化等整備事業（甲府県庁地区）（山梨県）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 27 年度【済】
事業概要	<p>県庁舎耐震化等整備事業のうち、県庁敷地のオープン化に伴い、敷地内の歩道の整備と、車両動線との分離による安全確保を行い、敷地内の緑化や多目的広場の整備を進める。</p> <p>また、県指定有形文化財である別館については耐震改修を行い、併せて近代本県発展の礎を築いた先人の功績を情報発信する展示施設等を整備し、県民や観光客等に積極的に公開活用していく。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）</p> <p>平成 26 年度～平成 27 年度</p>
目標値・最新値及び達成状況	<p>別館の展示施設である「山梨近代人物館」において、定期的にイベントを実施するとともに、県庁敷地を一般開放するオープンガーデンやまなしにおいて、噴水稼働やライトアップを実施するなど、中心市街地の活性化や賑わいの創出や回遊性の向上が図られている。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>計画通り事業は完了し、賑わいの創出が図られた。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>定期的イベントの開催や一般開放するオープンガーデンに賑わいの創出が図られている。</p>
事業の今後について	<p>定期的イベントの開催等を通じて、賑わいの創出に努めていく。</p>

③. 甲府中央一丁目地区優良建築物等整備事業（甲府市）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	<p>甲府銀座ビルの、民間主体による住居整備を含んだ再整備に伴い、官民が一体となり、通りの魅力向上を図るため、中心市街地活性化に大きく寄与する中核的な事業であることから、民間事業者等の支援を行う。</p>
国の支援措置名及び支援期間	<p>社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業）</p> <p>平成 26 年度～平成 29 年度</p>
目標値・最新値及び達成状況	<p>平成 26 年度に解体が始まり、平成 30 年 2 月に完成し、平成 30 年 3 月から引渡しとなった。事業主体と地元等が連携して、中心市街地活性化への活用策や、ビル周辺の魅力や環境の向上策等を検討・実施するため立ち上げた「甲府まちづくりラボラトリー」が一般社団法人として法人化し、1 階床部分等のスペースについて、テナントリーシングを実施し、平成 30 年度中に 1 階商業床 4 区画すべてがオープンし、中心市街地の賑わいの創出拠点の形成が図られた。</p>
達成した（出来なかった）理由	<p>計画通り事業は完了し、居住人口の増加に寄与した。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>事業の完了と併せ、民間主体による周辺道路を活用したイベント</p>

事業効果)	等が開催され、賑わいの創出が図れている。
事業の今後について	平成 29 年度に事業が完了した。

④. 甲府駅周辺土地区画整理事業

事業実施期間	平成 3 年度～令和 5 年度【実施中】 __
事業概要	県都の玄関口にふさわしい交流の拠点整備に向け、甲府駅周辺の大規模空閑地を活用した土地基盤整備を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（（道路事業）（区画）） 平成元年度～令和 4 年度
目標値・最新値及び達成状況	これまでに、大規模空閑地を活用し、ビジネス系専門学校の設置をはじめとした駅周辺における土地の有効活用が進んだことにより、賑わいの創出に向けた駅周辺の空間形成が図られた。
達成した（出来なかった）理由	計画通りの事業完成を目指し、賑わいの創出につなげていく。
計画終了後の状況（事業効果）	計画通りの事業完成を目指し、賑わいの創出につなげていく。
事業の今後について	計画通りの事業完成を目指し、賑わいの創出につなげていく。

⑤. その他、活性化に向けた自主事業（ココリのリニューアル）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】 【認定基本計画 平成 26 年 11 月～令和 2 年 3 月】
事業概要	前計画で再開発された複合施設である「ココリ」の空テナントについて、権利者が新たなリーシング契約を結ぶことで、満床化を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び達成状況	地下 1 階から 2 階までの空き床がほぼ解消された時期もあったが、最近では、空き床が出てきている。
達成した（出来なかった）理由	権利者との新たなリーシング契約により、満床となったが、事業者の経営判断により、撤退した店舗も出てしまった。
計画終了後の状況（事業効果）	一部空き店舗が発生している。
事業の今後について	引き続き、満床化を目指す。

4. 今後の対策

甲府銀座ビルにおいては平成30年2月に完成し、3月から引渡しを開始され、1階商業床スペースについては、事業主体と地元等が連携して、中心市街地活性化への活用策や、ビル周辺の魅力や環境の向上策等を検討・実施するため立ち上げた「甲府まちづくりラボラトリー」が一般社団法人として法人化し、テナントリーシングを実施して、平成30年7月にはワインバーがオープンし、平成30

年12月までに商業床全てがオープンした。

周辺道路エリアのグレードアップを図る「都市空間道路整備事業」についても、国の支援を受けながら平成30年度に完了し、魅力的な空間形成が図られ、中心市街地の魅力向上に繋がった。

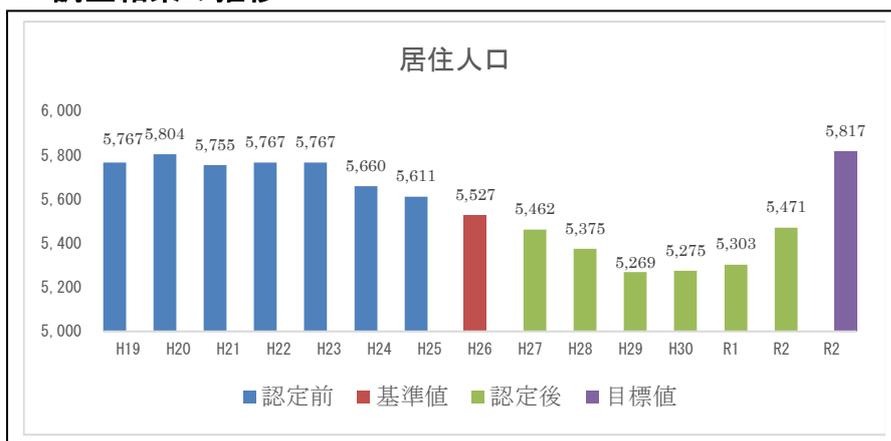
加えて、甲府駅周辺土地区画整理事業において、ビジネス系専門学校を設置をはじめとした駅周辺における土地の有効活用が進んだことや、平成30年度に完了した甲府駅南口周辺地域再整備事業により、快適な歩行空間とともに新たな人の流れが形成され、駅周辺における歩行者通行量は増加基調となった。

また、中心街の回遊性の向上や快適な歩行空間を確保することを目的とした、まちなか回遊道路整備事業も、令和元年度に完了し、甲府駅北口と甲府城周辺や中央商店街が線で結ばれ、回遊性の向上による賑わい、新たな人の流れの創出が期待される。

今後は、立地適正化計画及びそれに基づく社会資本整備総合交付金等を活用し、中心市街地活性化区域が包含された甲府駅周辺の重点都市機能誘導区域内において、甲府城周辺地域活性化実施計画に基づく整備等により賑わいの創出に努めていく。

「居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P86～P89 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H26	5, 5 2 7 (基準年値)
H27	5, 4 6 2
H28	5, 3 7 5
H29	5, 2 6 9
H30	5, 2 7 5
R1	5, 3 0 3
R2	5, 4 7 1
R2	5, 8 1 7 (目標値)

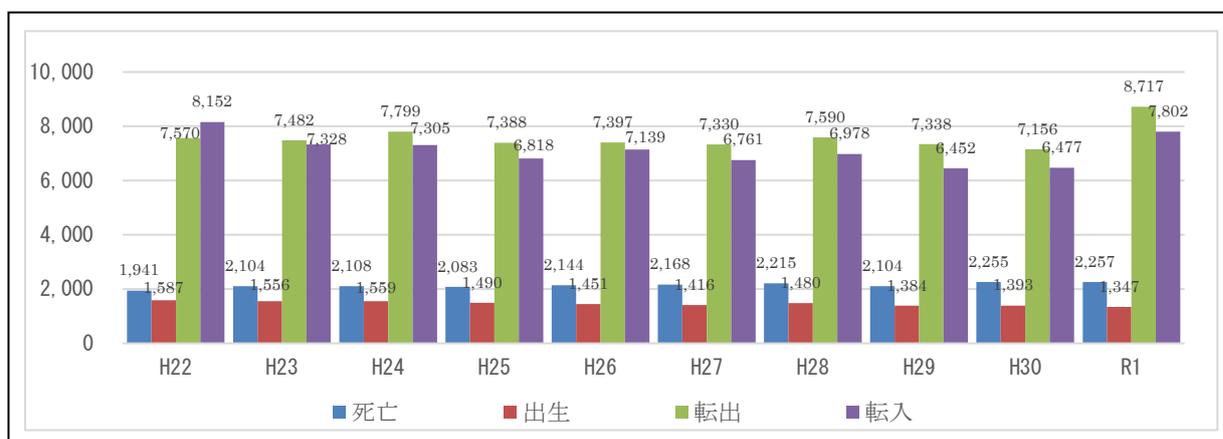
※調査方法：住民基本台帳による

※調査月：各年4月1日

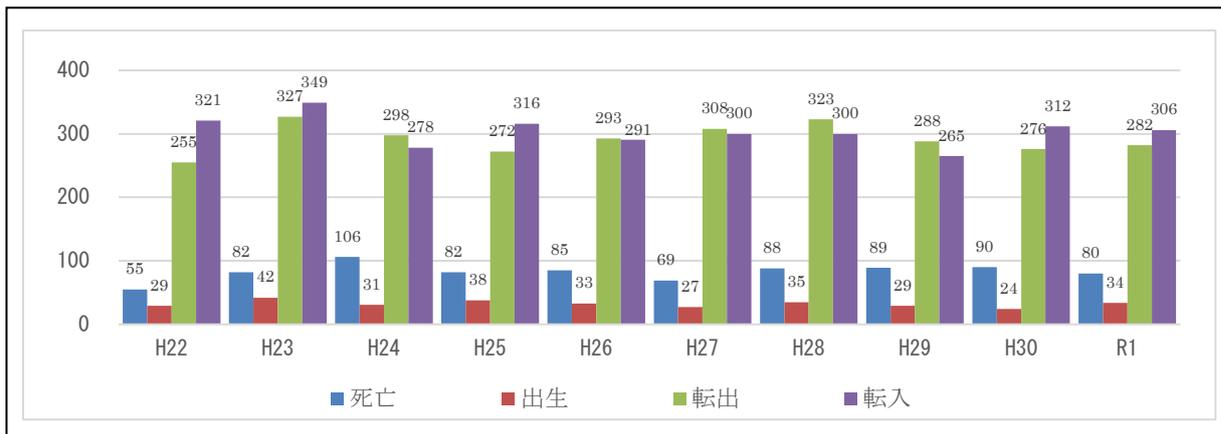
※調査主体：甲府市

※調査対象：住民登録者（外国人を除く）

・参考指標1：甲府市全域の自然増減、社会増減数（単位：人）



・参考指標 2：中心市街地の自然増減、社会増減数（単位：人）



2. 目標の達成状況【C】

甲府中央一丁目地区優良建築物等整備事業の支援対象である、甲府銀座ビルの再整備については、平成30年2月に完成し、良質な共住空間の整備が図られ、居住人口の増加に寄与したが、まちなか不動産バンク事業において、空き家の登録物件がなく、期待通りの効果は発現せず、目標値に達しなかったためCとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 甲府中央一丁目地区優良建築物等整備事業（甲府市）

事業実施期間	平成26年度～平成29年度【済】
事業概要	甲府銀座ビルの、民間主体による住居整備を含んだ再整備に伴い、官民が一体となり、通りの魅力向上を図るため、中心市街地活性化に大きく寄与する中核的な事業であることから、民間事業者等の支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） 平成26年度～平成29年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：271人 最新値 138人 平成26年度に解体が始まり、平成30年2月の完成に伴い、124戸の良質な居住空間が提供されたことにより、居住人口の増加に寄与した。
達成した（出来なかった）理由	平成29年度に事業が完了し、居住人口の増加に寄与した。
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口の増加に寄与した。
事業の今後について	平成29年度に事業が完了した。

②. 中心市街地定住促進住宅取得・改修支援事業（甲府市）

事業実施期間	平成26年度～令和元年度【済】
事業概要	一般住宅の建築又は一戸建ての分譲住宅、中古住宅若しくは分譲型共同住宅の購入、並びに中古住宅又は分譲型共同住宅取得時の修

	繕等を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業） 平成 27 年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値：130 件 人口：260 人 最新値：157 件 人口：314 人
達成した（出来なかった）理由	本事業により 168 件・314 人の定住人口増加につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	令和元年度に事業が完了し、定住人口の増加につながった。
事業の今後について	令和元年度に事業が完了した。

③. まちなか不動産バンク事業（甲府市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	遊休不動産の有効活用を図るため、空き家等所有者に対するバンク登録への呼びかけを行い、登録物件情報を積極的に情報発信するとともに、利用希望者との最適なマッチングを行うことで、居住人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 26 年度～令和元年度
目標値・最新値及び達成状況	目標値 一件 最新値 0 件
達成した（出来なかった）理由	空き家等の所有者に対してバンクの登録勧奨を行ったが、居住用物件の登録は 0 件であった。
計画終了後の状況（事業効果）	居住人口の増加に向け、引き続き事業の推進を図る。
事業の今後について	合同会社まちづくり甲府等と連携し積極的な情報発信を図る中で、登録物件の増加に努めていく。

4. 今後の対策

甲府中央一丁目地区優良建築物等整備事業の支援対象である、甲府銀座ビルの再整備については、平成30年2月に完成し、居住人口の増加に寄与している。

まちなか不動産バンク事業では、居住用の登録物件はなかったが、今後も合同会社まちづくり甲府等と連携する中で、空き店舗や空き家の解消に努めていく。

加えて、中心市街地を核とする区域において、本市の賑わいと魅力の維持・創出の担い手として欠かすことのできない若い世代を中心とした定住人口の確保に向けて、「空き家改修助成制度」と「子育て世帯家賃助成制度」を開始するなど、空き家の有効活用等についても、引き続き取り組み、空き家の所有者等への働きかけを強化する中で、居住誘導を推進していく。

今後、立地適正化計画及びそれに基づく社会資本整備総合交付金等を活用し、中心市街地活性化区域が包含された甲府駅周辺の重点都市機能誘導区域内において、甲府城周辺地域活性化実施計画に基づく整備等により賑わいの創出を図るとともに、魅力あるまちを目指すことにより、定住人

口の増加に繋げていく。

また、空き家等の既存ストックを活用することにより、人口流入を促進し、まちなかエリアにおいて、中心市街地活性化区域を支える地域コミュニティの維持を目指す。